



医学部

准教授 永田 千鶴さん (地域看護学)

Nagata chizuru

●プロフィール

- 1984年 関東通信病院附属高等看護学院で看護師として働く。
- 1986年 公衆衛生看護学院で一年間学び、保健師・助産師の資格取得。
- 1987年 医療法人で保健師として働く。
- 1990年 ニュージーランドへ私費留学、小さな老人病院の看護職として働く。
- 1991年 佛教大学社会学部(通信)で5年間学ぶ。社会福祉士の資格取得。
- 1997年 熊本学園大学社会学部採用
- 2001年 熊本大学法学研究科修了
- 2004年 九州保健福祉大学社会学部研究科博士課程入学
- 2005年 熊本大学医学部保健学科准教授
- 2007年 九州保健福祉大学社会学部研究科博士課程修了、博士社会学取得。

志あるところに道はある。

東京、さらにニュージーランドへ

小さい頃から看護師を意識していたという永田さん。

「東京に出たい」と、関東通信病院付属看護学校で学び、その後2年間関東通信病院で働きます。その時に属していたのが「継続看護検討班」で、退院した患者さんに対するケアを行っていました。退院後をどのように見守っていくのか、それを地域の保健師につなげる役割でしたが、この2年間で、訪問看護の必要性を強く感じた永田さんは、1986年、公衆衛生看護学院で学ぶため、熊本に帰り、翌年、医療法人で保健師として働き始めます。試行錯誤の毎日でしたが、自分が学んだことを仕事に生かすことができました。

1990年9月、永田さんは一年間休職し、ニュージーランドへ私費留学します。ニュージーランドでは小さな老人病院で看護職について働きました。日本と違って患者さんは、女性はワンピースを着て、ストッキングをはき、お化粧をきちんとして、アクセサリを身につける。時間をかけてゆっくりと、それを毎日繰り返すのです。人間が人間らしく日常を過ごすということを考えさせられた一年間でした。

困難を乗り越えて

ニュージーランドから戻った永田さんは、すぐに大学に入ります。復職して働きながら佛教大学社会学部の通信教育で学び、5年かけて卒業します。その間、結婚、出産を経験。1996年9月に卒業し、社会福祉士の国家資格を取得。翌年4月に熊本学園大学で介護福祉士養成課程の教員に採用されます。「大学教員としては資格が足りなかったのですが、条件を満たす人がいなかったようです」。そこで2001年に熊本大学法学研究科修了後、2004年、九州保健福祉大学社会学部研究科博士課程に入学します。

研究テーマは「認知症高齢者ケアの質を向上させるためのケアプロセスを評価するガイドラインの作成」というものでしたが、この研究は、ケアプロセスの質という見えにくく、評価が困難なものに焦点をあてるため、なかなか理解が得られず、博士課程受験には二度失敗しているそうです。しかし、諦めかけていた頃に九州保健福祉大学を受験し、指導教授から「このような研究が大事です」と返事をもらい、この研究に入ることが出来ました。

地域密着型のサービスを研究

2005年より熊本大学医学部保健学科で、老年看護学や社会学部論の講義をしています。また、学生の実習は熊本大学病院ではなく、外の病院や施設で行っています。これまで、20施設開拓し、どの施設も快く引き受けてくださるので、とてもありがたい。「ある程度恵まれた大学病院内だけの看護を学んでも、熊本の看護の質は上がりません。ですから、地域全体に目を向けて欲しいという思いがあるのです」と、永田さん。卒業生が熊本大学病院を退職しても、大学病院以外で実習を経験していれば選択の余地が広がるのではないかと、学生に対するそんな思いもあるそうです。

他県からの依頼で、『地域密着型サービスの研究プロジェクト』が、この8月から一年間始まります。家族の支えと「志あるところに道はある」をモットーに、常に現場と関わり現場に励まされながら、研究と教育は続きます。



2004年頃学生たちと(前列中央が永田さん)